

校長会報

第149号

宇都宮市立西原小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
生田 敦

印刷所
(有)正栄社印刷所

実り多き年に

栃木県小学校長会長 生田 敦



本会は、昨年度、創立七十五周年の節目を迎えました。この周年記念事業では、本会の発展に尽力された方々の功績や歴史を振り返ることを通して、改めて小学校教育の理念を確認し、会員相互の結びつきを深めることができました。また、昨年度は、「自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成」を目指して、国の動向や他県の取組

に関する情報の提供や、各学校間の情報共有も充実した年度であったと思います。会員の皆様には、これらの事業に様々な立場で関わっていただきましたこと、改めて感謝申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症が、本年五月には、二類から五類になりました。このことに伴い、少しずつ日常が取り戻されようとする中、皆様の学校では、どのように教育活動を進められているでしょうか。コロナ禍前に戻して教育活動を実施する、コロナ禍で実施した教育活動を継続する、

新たな考え方で教育活動を出すと様々であるかと思いますが、各学校にとつて、今年度は、今後何年かを見通した大きな転換期になると考えられます。つまり、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた試行錯誤をする年、トライアルになる年だと思います。各学校におかれましては、教育活動の趣旨や目的を十分に踏まえながら、子どもの思いや願いを生かし、教職員の負担にも考慮して教育活動を考えることが大切だと思えます。

ところで、学校の役割とは何でしょうか。私は、学校は、カリキュラムに従って学ぶ「計画性」と友達をはじめ様々な人との関わり

で育つ「集団性」の二本柱により、未来を担う子どもたちを教育する場と考えてきました。しかし、今回のコロナ禍においては、この二本柱が十分に機能できなかったように思えます。一方で、見方を変えれば、ICT活用等を通して、今後の学校のあるべき姿を考えるよい機会になったとも言えます。

今後は、「計画性」と「集団性」を大切にしながらも、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現が図れる教育活動を考える必要があると思います。また、ICTの活用により、学習において広く情報を共有するとともに、一方では、感性を豊かに働かせながら人と接したり、地域との関わりを実感したりするといった活動も充実させていく必要があるのではないのでしょうか。

令和五年度が、各学校にとって実り多き年となるよう願っています。

令和五年度栃木県小学校長会総会が五月十六日に栃木県教育会館において、栃木県教育委員会教育長の阿久澤真理様、前会長の松本和士様をお招きして開催されました。

生田敦会長は挨拶の中で、「今月には、新型コロナウイルス感染症が五類から二類に引き下げられ、だんだんと通常の教育活動に戻っていくのではないかと見通しているが、通常の教育活動とは何か。教育活動をコロナ禍前に戻す、もしくは、コロナ禍に実施したような中止、縮小という方向にする、その折衷案等、色々な方法が考えられるが、まさしく今年度がその分岐点であり、スタート、トライアルの年度ではないかと思う。それぞれの学校がその実情に鑑み、様々な教育活動を考え、試し、カスタマイズしていく、そんな年度になると見通している。教育活動の趣旨や目的を十分に踏まえながら、それぞれの学校の児童の実態に即して、教職員の負担も考慮し、教育効果を最大限に上げるためにはどうしたらよいか、まさしく校長をはじめとした学校力が問われることになる。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

総会後の研修会では、宇都宮大学大学院教育学研究科教授人見久城先生から「現行の教育課程で強調されていること」と題して講演があり、現行の教育課程が目指す方向や、良い授業とは何か、個別最適な学びと協働的な学び等について、示唆に富んだお話を聞くことができました。

第七十六回 栃木県小学校長会総会

令和五年度
活動目標

本校長会は、学校がさらに発展を続けることを目指し、以下の八点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す 学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覽

宇都宮・上三川 堀場 幸伸

宇都宮市立中央小学校
校長同士のつながりを大切にしながら、コロナ後を見据えた新しい教育課程の構築や不登校対策、働き方改革の推進などに積極的に取り組んでいきます。

上野市 星野 良子
下野市立祇園小学校
小学校長八名が、高い教育理念に基づいた創意ある教育活動を進めるために、横の繋がりを大切にして情報交換を行いながら、学校経営の充実を目指します。

黒澤 守
日光市立今市小学校
四十六名の会員が、高い同僚性を発揮し、課題や悩み、情報等を共有しながら、本地区の子どもたちのために主体的に課題解決に取り組む校長会を目指します。

芳賀 齊藤 正幸
真岡市立真岡小学校
本会の活動目標を踏まえ、次代を担う子どもたちのため、会員が相互に連携し、研修や情報交換を通して学校経営の充実に取り組んでまいります。

下都賀 神原 千里
野木町立友沼小学校
壬生町(八校)野木町(五校)の十三名が会員です。

塩谷南那須 碓氷 勉
塩谷町立玉生小学校
三市三町計二十九名の校長が、課題・情報等を共有し、「学校を守り、子どもたちや教職員を大切にしている校長」を目指し、連携・協力して会の運営に努めてまいります。

那須 藤原 真理子
大田原市立西原小学校
那須の大地に生きる子どもたちの健やかな成長のため、綿密で迅速な情報共有に努め、会員が連携・協力し本地区学校教育のさらなる充実に意欲的に取り組む校長会を目指します。

小山市 小松原 貴子
小山市立小山城南小学校
子どもの「瞳が輝き笑顔があふれ元気なあいさつが響く学校」づくりを目標に、学校経営の充実を努めてまいります。悩みを共有し合える校長会を目指します。

栃木市 庄司 秀樹
栃木市立合戦場小学校
校長としての専門性を互いに高め合えるよう、積極的に意見交換できる小学校長会を目指します。常に問題意識を持ち、会をリードできよう努力してまいります。

佐野市 須藤 孝浩
佐野市立植野小学校
十六名の会員が連携し、直面する教育上の諸課題に取り組みながら、令和の日本型学校教育の実現を目指す校長会となるように、研修に努めてまいります。

足利市 浅海 紀幸
足利市立三重小学校
「足利市の教育目標」具現に向けて、市内二十二校の連携・協力を深め、各学校教育のさらなる充実と発展を図れるよう、校長会の運営に取り組みます。

令和五年度
役員一覽

- 会長 生田 敦(宇・西原)
- 副会長 堀場幸伸(宇・中央)
- 書記 碓氷 勉(塩南玉生)
- 小松原貴子(小・小山城南)
- 神原千里(下都友沼)
- 長谷川昌弘(宇・五代)
- 引地健二(宇・泉が丘)
- 藤原真理子(那・西原)
- 石井和子(宇・雀宮中央)
- 國谷 優(宇・ゆいの杜)
- 片岡博志(佐・城北)
- 小野典利(上・石川)
- 永松正子(足・富田)
- 植木伸幸(芳・大内東)
- 会計監査

専門部
活動方針

総務部

部長 平野 紀子
宇・東小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

- ・ 本会の事業推進及び連絡調整
- ・ 教育懇談会等による対策活動
- ・ 各都府に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出（小中学校で作成、今年度は、中学校が取りまとめ）

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理と報告

(六) 全連小二地区対策・調研担当者連絡協議会に参加（本県の実情等の発表及び他県の情報収集）

研修部

部長 新村 幸江
宇・築瀬小学校

一 主題

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修主題に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力
・ 第七十五回全連小東京大会への参加（研究発表）

・ 栃木県小学校長会中央研究大会での研修の推進

(三) 研修記録「第六十三号」の編集・発行



調査部

部長 平松 和巳
宇・桜小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての諸調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動について調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) GIGAスクール構想について（二年度）

(二) 小学校における教科担任制について（三年度）

※七月上旬に、作成したアンケートを各校へ配信いたしますので、期限内までに、各地区調査部長へ回答いただきましたようお願いいたします。調査結果を、小学校長研修記録「第六十三号」に掲載いたしますので、ご活用ください。

厚生部

部長 窪田 幸子
宇・宮の原小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和五年度は、中学校長会の慶弔会会計が県小中学校長会の慶弔会会計を担当します。今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 竹澤 昭
宇・細谷小学校

一 主題

栃木県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長会の活動目標に関することや、学校が直面する経営上の諸問題についての情報を会報及びホームページで提供する。

(一) 「校長会報」の年二回発行（七月・二月）

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 特色ある学校づくり

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力（機関紙「小学校時報」など）

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 一致団結！ 校長会

栃木県小学校長会副会長 堀場 幸伸



新型コロナウイルス感染症との戦いも収束に向かい、学校にも平常な生活が戻りつつあります。コロナ禍において、学校は様々な対策を講じながら、子どもたちの安全・安心な生活を確保し、すべての子どもの学習を保障することに努めてきました。県校長会でも、校長間ネットワークを活用し、各地区の取組や工夫などを共有することで、各校の学校経営に役立つよう努めてきました。このように、校長の連携・協力により、難局を乗り越えてきました。

活させるのか、形を変えて実施するのか、思い切つて削減するのか、難しい判断に迫られる場面もでてきます。安易にコロナ前に戻すことは避けつつ、学習指導要領の趣旨を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを生かしながら、各校の強みを生かした新しい教育課程を構築していくこととなります。

わたしたち校長には、これらの課題をしなやかに解決することが求められています。しかし、「校長は究極の一人職」です。そのため、これらの課題を解決するためには、校長同士の連携・協力が必要不可欠となります。そして、校長同士のつながりを「深く」「強く」するために重要な役割を担うのが、この校長会です。今年度も校長同士のつながりを大切にし、みなさんがもっている情報や経験を共有しながら、一致団結して予測困難で難しい時代を乗り越えていけたらと考えています。「すべては子どもたちの笑顔のために！」

主張 「五つのワーク」と「恩送り」

栃木県小学校長会副会長 碓氷 勉



二十数年前のある研修会で学んだ「五つのワーク」。(造語を含む)

- 「ヘッドワーク」：頭を鍛える
- 「ハートワーク」：心豊かに
- 「フットワーク」：自ら行動する
- 「チームワーク」：仲間と共に
- 「ネットワーク」：絆を大切に

この五つは、私が日々の生活の中でほんのわずかでも実践できたらと心掛けていたキーワードです。

新型コロナウイルス感染症対応や少子化、世界的な経済不安、学校の抱える諸問題等、今私たちは難しい時代の中で学校経営という舵取りをしています。時には迷い、悩み、苦渋の決断を迫られることも多いことかと思えます。

そんな時だからこそ、この五つのワークが、進むべき道へのよき判断材料となる気がします。

頭・心・行動の鍛錬はもちろんのことですが、自校におけるチームワークである「チーム学校」が機能し、同僚性が高まっていれば、

例え難問であっても恐るるに足らずです。なんととっても援軍が身近な校内にいてくれるのですから。また、市町・地区そしてこの県小学校長会というネットワークにより、情報や課題についての連携が図られ、悩みや方向性を共有できたなら、学校経営の迷いもかなり軽減されることでしょう。そんな校長会になることを願っています。

全連小の冊子の中に、人は、何か善いことをしてもらったら、「恩」を感じ、その「恩」を施してくれた人に返すのが、「恩返し」。その「恩」を誰かに渡していくのが「恩送り」という話が記載されています。

今までたくさんの方々からいただいた「恩」を、この県小学校長会という場を借りて、少しでも「恩送り」できれば幸いです。微力な私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。



自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもを育成を目指す学校経営

「かしこくやさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子」を目指して

宇都宮市立五代小学校 長谷川 昌弘

一 はじめに

本校は、昭和五十三年に宇都宮市立雀宮中央小学校から分離し、創立四十六年目を迎える学校です。本校学区は、宇都宮市の南部、雀宮地区の北部に位置する住宅地を中心とした地域です。六百四十八名の児童は、地域の方々に見守られながら、素直にのびのびと育っています。本校の学校教育目標の合言葉は「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子」です。

二 特色ある教育活動
本校では、交流活動の推進と心の教育の推進が大きな柱となっています。交流活動ではコロナ感染症対策の制限下でしたが、読書ボランティアや雀宮おはなし会の読み聞かせなど、できることを探し、取り組んできました。十二月には地域協議会と連携し、三年ぶりに「五代っ子フェスタ」を開催しました。久しぶりの大きなイベントで大いに盛り上がりました。今年度は夏祭りの開催や外部講師による授業も積極的に取り入れていく予定です。

三 おわりに
これらの様々な体験を通して、地域や友達とのつながりを深め、温かな交流と居がいのある学級経営を実践し、コミュニケーション能力を高めながら、豊かな心の育成に取り組んでいきます。今後地域の方々や保護者の皆様の温かい御支援をいただきながら、学校経営に励んでいきたいと思っています。

心の教育の推進としては、毎日のあいさつ運動と学年内で担任を交代しながらの「ローテーション道徳」に力を入れて取り組んできました。今年度は更に五年生でヒラメの養殖体験を通して食と命について考える「いのちの授業」にも取り組んでいく予定です。

また、昨年度後半からは様々な力の基礎となる認知能力を高めるコグトレを全学年で取り組んでいくところです。

三 おわりに

これらの様々な体験を通して、地域や友達とのつながりを深め、温かな交流と居がいのある学級経営を実践し、コミュニケーション能力を高めながら、豊かな心の育成に取り組んでいきます。今後地域の方々や保護者の皆様の温かい御支援をいただきながら、学校経営に励んでいきたいと思っています。



五代っ子フェスタ

心の成長を感じながら

小山市立豊田小学校 星野 朋子

本校は、豊田南小学校、豊田北小学校が統合され、令和四年四月に開校した小学校である。隣接する豊田中学校と小中一貫校として誕生した。「自律的に行動し、夢を持ち続け、地域とともに育つ子の育成」をスローガンとし、小中の教職員が丸となって教育活動を行っている。

私が先生方をお願いしていることのいくつかを紹介したい。

一つ目は小中合同の活動は、目的でなくて、手段であるということだ。小中合同活動として、スポーツフェスタ、地域でのボランティア活動、フェスティバルウィーク(文化祭)を行っている。それぞれの行事でどんな力をつけたいのかということを明確にして取り組み、振り返ることを大切にして、子どもたちが自分の成長を実感できるものにしてほしいとお願いしている。

二つ目は持続可能な教育活動を進めていくということである。開校一年目は、手探りでやってきた。二年目はそれをそのまま踏襲するのではなく、今後も見据えて、持続可能かどうかを考えながら、工夫・改善をしながら進めるようお願いしている。

三つ目は、人との出会いから多くのことを学ばせてほしいということだ。子どもたちは、様々な活動の中で、教師以外の多くの人と出会う。そうした活動を計画する際に、ただ、例年どおりとするのではなく、「来ていただく方の生き方や魅力などの素晴らしさ」を先生方自身が、その人と話し、感じた上で子どもたちに出会わせてほしいと伝えている。こうした出会いが、子どもたちだけでなく、教職員も成長させると考える。いつも支えていただいている地域の方とも、もつと絆を深めていきたいとも感じている。

開校以来、本校の教職員は、「自分たちが、豊田小学校の歴史を創っている」という自覚をもち、前向きに教育活動に取り組んでいく。これからも、何より、教職員が健康で共に喜びを感じ、子どもたちが笑顔で成長していけたらそれが一番よい。



スポフェス 小中合同豊田音頭

特色ある学校づくり

「多人数の力」を最大限に生かした教育活動の実践 〜児童一人一人の自己有用感・自尊感情の育成を目指して〜

鹿沼市立さつきが丘小学校 穂本 勝

児童数や教職員数の多い本校の特色を生かして、多様な考えを出し合ったり練り合ったりする「学び合い」を大切に学習活動に取り組んでいます。

本校では、鹿沼市教育委員会の授業力向上事業の研究指定を受け、算数の授業改善に取り組んでいます。今年度は「子どもと創る算数授業」自らの考えを広げ深め表現する児童の育成をめざす授業改善」を研究主題として、組織的な取組を進めています。

学校行事においては、「重点学
校行事」を設定して、「全体指導」と「個別指導」を充実させ、特定の児童が不応を起ささないように配慮しながら、児童の自己有用感・自尊感情を育むよう努めています。

教職員は、「賢く部会」・「直く部会」・「逞しく部会」の三部会を組織し、相互に連携を図りながら、学校教育目標である「賢く・直く・逞しく」の具現化に向けて、邁進



授業力向上事業 算数授業

PTA活動も、学校支援ボランティア活動も盛んです。数多くの保護者や地域の皆様が活躍してくださっているおかげで、私たちは、児童と向き合う時間を確保することができます。

児童・保護者・地域・教職員の「力の力」を「教育力」や「活力」にして、「笑顔あふれるさつきが丘小学校」を目指して、「チームさつき」で一緒に取り組んでいます。

それらの取組を通して、児童・保護者・地域・教職員が、「さつきが丘小学校でよかった」という思いを抱き、愛し、誇りに思えるような学校にしていきたいと考えています。

かがやく自分を育てよう!

野木町立佐川野小学校 関根 幸子

本校は、明治八年六月に「訓蒙館」として設立した歴史と伝統ある学校で、令和二年度より町内全域から通学可能となった児童数六十五名の小規模特認校です。校舎南側にある、千三百九十五平方メートルにもなる広い学校農園を活用し、特色ある学校の一つとして食農教育に力を入れています。

令和元年度から二年度、食農教育研究指定を受けたときに作った本格的なミニトマトハウスで、現在も、六年生のミニトマト栽培を行っています。他に三・六年生の田植えや稲刈り体験、五年生の米作り、四年生のサツマイモの栽培、全学年での野菜の栽培など、地域の農園ボランティアの方に教わりながら、食農教育を継続して行っています。

特に、六年生のミニトマトは、苗植え、収穫、販売まで行っており、どうすればお客様の目にとまり購入していただけるのかということも考えながら活動しています。

特色の二つ目は、五・六年の外国語科の学習です。ALTの派遣会社と協働して、年数回英語のオンライン授業（ICTを活用して、子どもたちと複数のALTが、オンラインによる一対一で行う授業）を行っています。子どもたち



外国語の授業の様子



オンラインの様子



ミニトマト栽培の様子

は、初めは緊張していましたが、徐々に慣れ、スモールトークを楽しみ子どもが増えてきました。

三つ目は、外部とのオンライン交流です。ICTを活用し、町内の小学校に音読劇や、食農教育で学習したことなどの発表をしました。また、令和四年度には、四年生から六年生が、食農教育のよめを、ガム日本人学校の同じ学年の児童に発表するなど交流の範囲を広げました。

今後も、「かがやく自分を育てよう」の合い言葉のもと、児童が友達や地域の方との絆を深め、夢や目標をもったくましく生きていける児童の育成に努めていきたいと考えています。


 Cosmos
 
 栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

国府谷 康子

本会は、しなやかな思考による学校経営や確かな教育の創造を目指し、研鑽を積むことを目的とし、今年度は公立小・中学校及び義務教育学校の女性管理職三〇八名（内校長一・六名）で活動がスタートしました。

これまでのコロナ対応をきっかけに、本会としての活動内容も見直し、「不易と流行」の視点で、総会や研修会の在り方を再構築してきました。研修内容や方法についても工夫を重ね、昨年度七月には、関プロ女性校長会栃木大会を、八月には本会夏の研修会を、それぞれオンラインで開催することができました。

今年度も、本会夏の研修会は、オンラインも組み合わせたハイブリット形式で実施し、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生をお招きして、インクルーシブ教育を進める学校経営について学びを深める予定です。

今後、女性管理職の資質の向上のため、活動を止めることなく前進させていきたいと思えます。


 「とちぎの子どもたちの
学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

本県の子どもたち一人一人の学力向上を目的とした「とちぎっ子学力アッププロジェクト」は、平成二十六年度にスタートし、今年度で十年目を迎えます。

これまでの本プロジェクトの推進を通して、各学校では調査結果を活用した検証改善サイクルの構築が図られ、組織的な取組が進められていることを実感しております。特に、調査結果を分析し、児童生徒の実態を把握した上で、学校全体で課題を明確にした学力向上改善プランを作成し、調査問題や調査結果を活用して学習指導を工夫・改善するなどの取組が進められています。

今後、組織的な取組の一層の充実を図ることができるよう、学校全体で焦点化した課題を共有し、各教科等の特質を踏まえ、一人一人の先生方が実践を積み重ねていただきたいと思います。また、課題解決に向けた取組について教職員同士で語り合うなど、学校全体で進捗状況のこまめな確認を行っていただきたいと思います。

令和五年度

関プロ理事会だより

栃木県小学校長会副会長

堀場 幸伸

第一回理事会は、さいたま市で開催された。

一 会長あいさつ

給特法の改正に向け、様々な議論がなされているが、質の高い教員の確保のためには、教職の魅力向上や働き方改革の推進が必要である。

二 協議

○令和四年度会務、会計報告

○令和四年度群馬大会会計報告

○令和五年度役員選出

・会長（長野県 片山洋二）

・副会長（東京都 平川惣二）

・幹事（長野県 轟裕明）

○令和五年度事業計画、予算案

○第七十五回関プロ東京大会

・令和五年十月十九～二十日

・全連小研究大会と同時開催

○第七十六回関プロ長野大会

・令和六年六月六～七日

○第七十七回関プロ新潟大会

・令和七年六月十九～二十日

三 情報交換

・教員の確保

・定年延長

・管理職志願者の減少 等

 「全国連合小学校長会
第七十五回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

生田 敦

五月二十六日、全連小理事、代議員が東京都港区のニッショーホールに参集し、総会並びに研修会が開催された。

総会では、植村洋司会長（東京都）からの挨拶、文部科学省大臣官房審議官の安彦広斉氏をはじめとする来賓からの祝辞、退任役員への感謝状贈呈等があり、続いて、昨年度の事業・決算報告、本年度の活動方針、事業計画、予算案が審議され、全て承認された。

研修会では、文部科学省大臣官房審議官の安彦広斉氏からの「当面する初等教育の諸問題」と題する講話に続き、関係各課より「学習指導要領の実施」「教育の質の向上に向けた働き方改革、処遇の改善、学校の指導・運営体制の充実の一体的な推進」「いじめ不登校の対応」「幼保小学接続の改善」「体力向上に向けた取組」についての行政説明が行われた。

最後に、第七十五回全連小研究協議会東京大会の概要説明があり、閉会となった。

話題の広場

ふるさと交流ウォークラリー

栃木市立真名子小学校

石川 幸子

様々な鳥のさえずりと四季折々の美しい花々に囲まれた本校は、在校生四十二名の小さな学校です。「ふるさと真名子」を子ども心に刻む教育の実現を目指し、地域の方々と共に教育活動を行っています。

「ふるさと交流ウォークラリー」もその一つです。縦割り班で地域を散策しながら、大宮神社や地域に伝わる千手観音、地域の名所でもある真名子八水を巡りながら、お話を聞いたりクイズに答えたりする活動です。神社の宮司さんや地域コーディネーターさんなどのご協力をいただき、全校生が自分たちの住む地域への理解を深めることができそうです。また、所々にボランティアの方々がいてくださり、危険がないか見守ってくださいるのも大変ありがたいことです。

地域の良さを知り、異学年で協力して活動することで、ふるさとや友達を大切に育てていきたいと思えます。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

青柳 文男

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇任おめでとうございます。

運営拠出金委員会は、校長会の主体的な活動の充実と強化を図ることにより、校長がその地位を確立し、職務を遂行するために行う諸活動の財源(運営拠出金)の保管・管理をする目的で設けられています。運営拠出金は、本会に入会される際に、皆様からお預かりしています。

さて、昨年度は県校長会七十五周年行事が開催され、この記念事業費が主な支出となりました。今年度は、全連小七十五周年記念事業への支出が見込まれています。また、次回の小学校長会関ブ口栃木大会の準備資金として積み立てることも目的の一つとなっております。

会員の皆様におかれましては、本委員会の活動の趣旨をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長

小野 浩司

新型コロナウイルスの五類移行により社会情勢も変わってきましたが、会員の校長先生方はまだ感染予防の心配が尽きないこととされます。今年度より、事務局長を担わせていただくことになりました「小野浩司」と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度よりは、県小学校長会の事業や運営方法も通常に戻りつつありますのでスムーズにできればと思います。

年度当初の理事研修会は、通常の形で理事の皆様に参加していただき、新役員の承認を行いました。定期総会も、全員が会場参加となり、来賓をお招きして開催することができました。

今年度は、全連小七十五周年記念東京大会が予定され本県からも多数の校長先生が参加されます。栃木県小学校長会事務局は、今年度は小野事務局長と高柳事務局主任です。勤務は九時～十六時です。不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。

編集後記

三年もの間影響を受けてきた新型コロナウイルス感染症の分類が二類から五類に変わったことに伴い、学校での教育活動もその都度、今までの対応の見直しを迫られるようになりました。

本校においても、安全面の確保と健やかな子どもたちの成長の両立を目指して、今年度の教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

本市の校長会では、教育長より「自校の子どもたちを一番に愛する校長、自校を一番に愛する校長」という言葉を受けました。めまぐるしい変化の時代ですが、その気持ちをしっかりとって、目の前の子どもたちに接していきたいと思えます。

本号の発行に際してご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

佐野市立赤見小学校

小林 豊彦